

予算審査特別委員会

総括質疑

熊谷 善行 議員

「町と高齢者事業団の随意契約」
「約」
「関し調査を」

問 町はシルバー人材の活用・高齢者の働く場の確保を目的として高齢者事業団と工事業を随意契約している。地方自治体が民間事業者と契約を結ぶ場合は競争入札が原則だが、目的が競争入札に適しない場合として随意契約としている。

ある団員から「高齢者事業団の幹部と政党の方が来訪し政党機関誌の購読を求められたが断ったので仕事がなくなるのでは？」と友人に対して相談があったと聞く。誰もが感じるところだが、これは高齢者事業団が契約事業をベースとして、団員に対するパワーハラスメントであり、それを利用して政党機関誌の購読を求めている、非常に重大な問題ではないか。

町として高齢者事業団での同様の実態調査を求めるとともに、結果に

よっては随意契約に新たな対応が必要ではないか。

答 町は発注者の立場として、どこまで関与していいものかと難しい判断ではあるが、発注者としての道義的責任を問われるものである。発注者として実態を把握し、しかるべき対応を取っていく。

鈴木 裕美 議員

「憩の家かや沼破綻に至る検証について」

問 広報6月号に町観光開発公社の検証報告が掲載されたが、6点について聞く。

①利用者増の兆しありの要因はなんと分析し、どう推進強化したのか。

②復興割に期待していたのか。

③当初から高いハードルを設定した運営等々は、施設の設定目的を果たす努力は当たり前ではないか。

④平成29年作成の長期改善計画初年度の結果で、破産申請を選択したことは間違いなかったとの検証結果か。

⑤経営難の際の決め事が必要だったと検証されているが、今回それを明確にして改修工事を提案するか。

⑥企業力パナンスの欠如とは具体的に何が問題だったのか。

答 ①胆振東部地震以前の客足が徐々に回復し、団体客も見込める状況であった。

②売り上げの追い風になったとは言えない。

③建設当初の理念から複合的な目標があり、町内・町外問わず利用促進のため最大限の努力が図られていた。

④平成20年の経営内容をもとに経営

が軌道に乗るよう努めたが、結果的に経営を継続するには困難な状況であった。

⑤長年にわたる経営の中では様々な課題があったが、様々な選択肢を揃え対応していききたい。

⑥PDCAサイクルなどがビジネスモデルとして認識されているが、それも含め経営陣・現場サイドでできることがあったのではないかと考える。



空撮による憩の家かや沼

類瀬 光信 議員

「国立公園内の外来種、移入種、環境変化の実態は」

問 国立公園における問題点として、「西別岳の「コマクサ」「茅沼で温泉排水路付近の樹木が枯死」「茅沼のテラピア自然繁殖」「茅沼のアライグマの農業、漁業被害」等がある。それぞれ湿原の生態系を脅かす可能性があり実態を確認し、早急に対策を講じるべきだ。

また、購入したサルボオ一帯の管理方法はどうか。塘路湖の水質改善に自然再生事業を活用できないか。



答 西別岳の管理者より常に実態報告を受けているが外来種「コマクサ」の報告はない、今後とも注視するよう指示していく。湿原公園内の樹木の枯死、テラピア自然繁殖等、環境省と協議し実態の確認を進める。

アライグマについては平成25年から令和元年まで釧路根室地方での生息実態の報告はない。ワカサギの漁獲減は具体的に漁協より報告はないが、協議を進める。町有林への入山規制はしていない。

松下 哲也 議員

「広域連携ブランド化推進事業の経過と内容は」

問 農業振興費で広域連携ブランド化推進事業として60万円が予算化された。釧路町と合同の取り組みと聞くと、取り組みに至った経過と事業内容、最終的な方向性を伺う。

答 北海道イキイキ事業を活用し町の地場産品をブランド化し、

将来のふるさと納税返礼品としてブランド化を目指す商品へのテスト期間も含め、3年くらいを目途に事業推進補助をしていく。



「修学旅行の確実な実施を」

問 新型コロナウイルス感染症における非常事態宣言により、町内中学校3校の修学旅行が延期の処置がとられ、それに伴いキャンセル料が予算化された。今後、実施時期はいつ頃になるのか。生徒の心情を考慮確実に実施できるよう教育委員会として万全な対策を取ることが望むがいかがか。



答 5月からの新型コロナウイルス感染症拡大により町内小中学校の修学旅行がすべて延期もしくは中止と学校内判断されている。今後とも情報提供はもとより実施する各校には出来る支援を続けていく。